

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区名	天王寺区
学校名	大阪市立夕陽丘中学校
学校長名	福山 英利

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学）
 - ・主として「知識」に関する問題（A問題）
 - ・主として「活用」に関する問題（B問題）
- (2) 質問紙調査
 - ・生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の中学校第3学年の原則として全生徒
- ・大阪市立夕陽丘中学校では、第3学年 192名

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

全ての問題（国語A・B、数学A・B）について全国の平均正答率を上回った。さらに、領域別では、国語の4領域・数学の4領域全てが全国の平均正答率を上回った。平均無解答率では全国平均より高いことが本校の課題であったが、国語A・B、数学A・Bとも、全国平均を下回った。特に数学は問題Aが3.2pt、問題Bが5.9pt下回り、大きく改善された。

生徒質問紙調査からは、学校の授業以外に1日あたり勉強する時間が2時間以上と回答している割合が、全国平均より18pt高く、平均正答率が高くなり、無解答率が低くなった一つの要因と考えられる。しかし、1日あたり読書を全くしない割合が、全国平均より10.6pt低かった。また、ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったと肯定的に回答した割合が、昨年度と同じ傾向が続き、全国平均より3.6pt高くなっている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕A問題では全国の平均正答率を3.0pt上回った。特に「話すこと・聞くこと」の領域では、4.3pt、また、短答式の問題形式では3.6pt全国の平均正答率を上回った。B問題では、全国の平均正答率を5.2pt上回った。特に「読むこと」の領域では、5.1pt全国の平均正答率を上回った。以上から、漢字の読み書きや、基礎的な知識をもとに簡単な文を書く力、身についた知識を活用し内容を読み取る力がついていると考えられる。無解答率も全国平均より低く、無解答率0がA問題では21/33、B問題では4/9であった。また、国語の勉強は好きかとの問いに肯定的な回答した生徒が71.5%いるにもかかわらず、読書は好きかとの問いに肯定的な回答をした生徒は、67.2%で全国平均より2.7%低い。

〔数学〕A問題では9.1pt、B問題では8.8pt、また、A・B問題ともに全ての領域で全国の平均正答率を上回った。A問題では関数分野の正答率が高く、2年時の1次関数の学習時に、繰り返し練習問題に取り組んだ成果が出たといえる。B問題では、証明問題の正答率が高く、習熟度別少人数分割授業を図形分野で実施し、ねばり強く問題演習してきた結果として、考える力が定着してきた。数学ができるようになりたいと肯定的な回答をした生徒が、全国平均より1.1pt高く92.4%いており、無解答率についても、A・B問題とも全国平均を下回った。

質問紙調査より

朝食の喫食や就寝・起床の時刻などについては肯定的な回答割合が全国よりも高く、基本的な生活習慣は身につけていると思われる。

学習習慣については、上記の概要の通り、日常の学習時間は全国と比較して多い。しかし、家で学校の授業の予習・復習をしていると肯定的な回答割合は全国平均より、それぞれ6.3pt・6.9pt低くなっている。一方、通塾率が高く、学校と塾の両立をやりくりしている様子がわかる。

自分の考えや意見を発表することが得意であると回答した割合は、全国平均を2.9pt下回っている。また、1、2年生のときに受けた授業で、話し合う活動をよく行っていたと回答した割合も、全国平均より22.4pt下回った。生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう、引き続き授業研究を継続していく。

今後の取組

国語では、読書を全くしない割合や読書が好きな割合が全国平均より低く、読書啓発をより充実させ、日々の読書からさらに読む力・書く力をつけていくことが課題である。数学では、記述式の問題（1問）の無解答率だけが全国平均より高く、説明（記述式）の問題にもねばり強く取り組める様に、授業などで発表する場を増やしていく必要がある。

各教科を総じてみると、基礎・基本事項の定着はできているものの、自分の考えを発表するなど表現力を高めることが十分にできていないと思われる。

今後は、引き続き習熟度別少人数指導やICT機器を活用するなどして、個に応じた指導方法の工夫をより一層図り、基礎・基本の定着を徹底させるとともに、資料などを活用して考えを発表する場面や互いに考えを伝えあう場面を取り入れた授業づくりを研究していく必要がある。

また、自分にはよいところがあると思えますかに対する肯定的な回答割合が全国平均より低く、自尊感情を高めるため、取組みを工夫したりや道徳の時間を研究したりする必要がある。